

村上市地域安全克雪方針

令和 6 年 3 月

村上市

目次

第1章	はじめに.....	1
1	地域安全克雪方針策定の背景と目的.....	1
第2章	現状と将来見込み.....	2
1	除排雪作業に関する死傷者数.....	2
2	人口・世帯数.....	3
3	除排雪の体制.....	5
4	除排雪業者の状況.....	6
5	民地の除排雪に要する行政コスト.....	7
第3章	現状と将来見込みに基づく課題.....	8
第4章	住民参加による課題や取組等の検討.....	9
1	ワークショップの開催.....	9
2	講習会の開催.....	17
3	克雪モデル団体の活動事例.....	18
第5章	地域の将来構想.....	19
第6章	地域のルール・各主体の取組事項.....	21

地域安全克雪方針と SDGs

SDGs とは、2015 年 9 月に国連で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中で掲げられている 17 の目標のことです。村上市においても、SDGs の達成に向けて取組を進めており、本方針もこの考えを踏まえて策定しています。



SDGs の 17 のゴール

■村上市地域安全克雪方針で、特に関連する SDGs



目標 11
【持続可能な都市】



目標 13
【気候変動】



目標 17
【パートナーシップ】

第1章 はじめに

1 地域安全克雪方針策定の背景と目的

近年、人口減少や少子高齢化を背景とした担い手の減少による除排雪作業の少人数化や高齢化により、全国各地でも雪による死傷事故が多発し、その大部分が豪雪地帯での事故となっています。

県全体が豪雪地帯に指定されている新潟県では、平成23年度から令和2年度の10年間で794件の雪による事故が発生しており、そのうちの68.9%（547件）が雪下ろし等除排雪作業中の事故となっています。なお、令和4年度の死亡者16名（死傷者全体で167名）のうち高齢者は10名で全体の62.5%と高い割合を占めています。

村上市は新潟県の最北端に位置しており、市内でも特に積雪の多い朝日地域は特別豪雪地帯に指定されています。積雪量による増減はあるものの、ほぼ毎年除排雪による死傷事故が発生しており、今後少子高齢化に伴い、除排雪作業に困難を抱える世帯が増え、単独や高齢者による作業中の事故の増加が懸念されています。

このことから、地区・集落の助け合いによる除排雪体制の構築を促進し、安全な除排雪作業を行うことが喫緊の課題となっています。

このような背景を踏まえ、村上市全体を対象とした地域安全克雪方針を策定し、除排雪体制の構築に取り組むことで、自立的で持続可能な地域コミュニティの共助による除排雪作業中の死傷事故防止を目的としています。

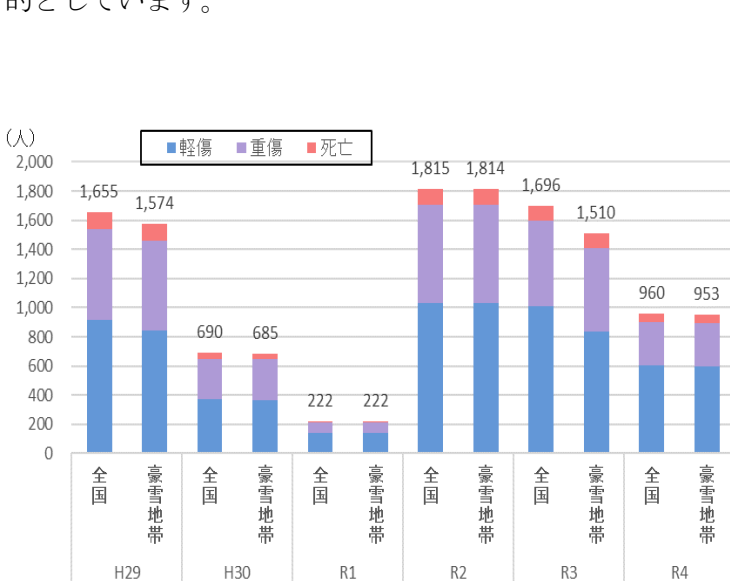


図1 雪による死傷者数の推移

資料：内閣府

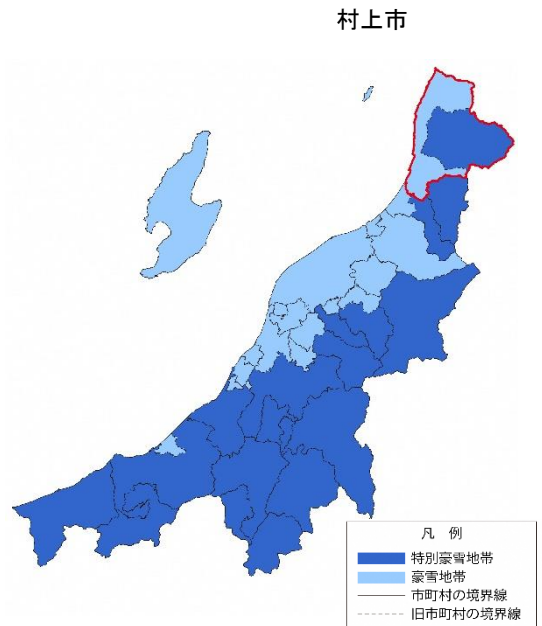


図2 豪雪地帯の指定状況（新潟県）

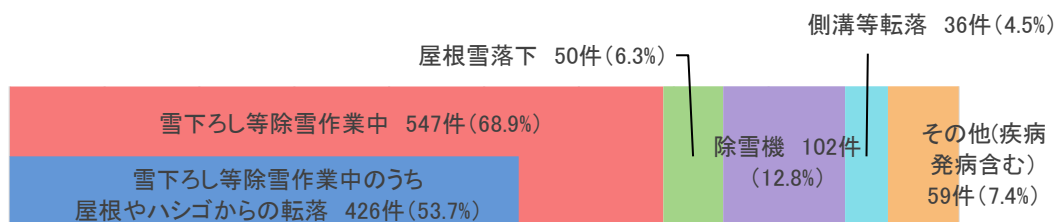


図3 県内で発生した雪による事故の内訳（平成23年度～令和2年度）

資料：新潟県（令和3年度）

第2章 現状と将来見込み

1 除排雪作業に関する死傷者数

- ・村上市の積雪量は年により変動はあるものの、市中心部においても平均して 30 cm以上の積雪があり、ほぼ毎年死傷事故が発生しています。
- ・特に積雪量の多かった平成 29 年度には、市中心部（塩町）で 85 cm、最も積雪の多い蒲萄で 277 cmの積雪があり、11 人が死傷、そのうち 2 人が死亡しています。
- ・市内には克雪住宅として新築又はリフォームされた住宅はなく、雪下ろし命綱固定アンカーを設置している住宅は 6 戸と少ない状況です。

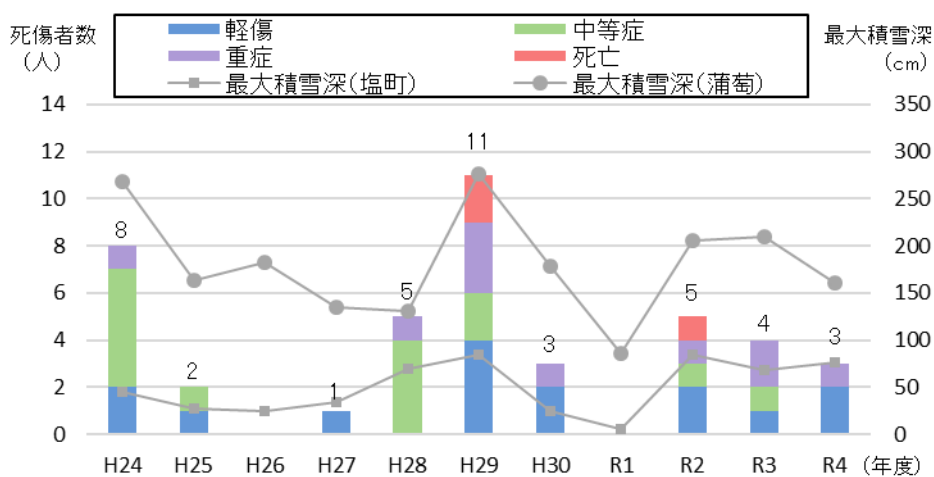


図4 除排雪作業中の死傷者数の推移と最大積雪深

資料：村上市

表1 克雪住宅と雪下ろし命綱固定アンカー設置済住宅戸数（令和5年12月現在）

	戸数	割合
克雪住宅	0	0%
雪下ろし命綱固定アンカー設置済住宅	6	0.03%

※木造専用住宅（令和5年度固定資産概要調書）に対する割合

資料：村上市

2 人口・世帯数

- ・村上市の総人口は減少を続けており、令和 32 年には約 3 万人に減少すると推計されています。
- ・総人口に占める生産年齢人口の割合（15～64 歳の割合）の減少が続きます。
- ・生産年齢人口の割合が減少する一方で、高齢者のみ世帯は増加傾向にあり、今後もその傾向が続きます。
- ・高齢化率は、令和 2 年では朝日地域や山北地域で 40%を超えています。

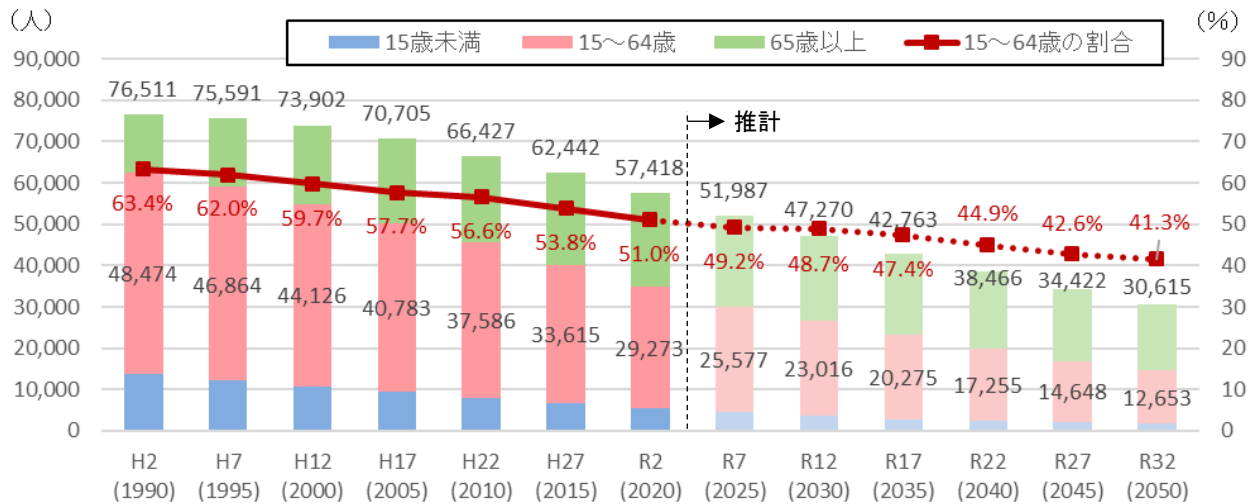


図5 年齢3区分別人口と生産年齢人口割合の推移・推計

資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

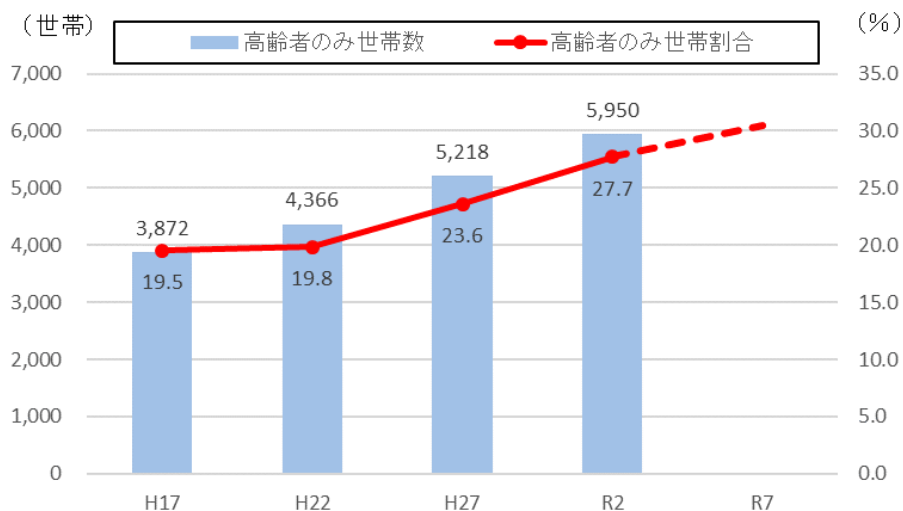


図6 高齢者のみ世帯数の推移

※高齢者のみ世帯（世帯全員が65歳以上）を対象

資料：国勢調査（各年）

表 2 地域別高齢化率

	人口	65 歳以上人口	高齢化率
市全体	57,418 人	22,619 人	39.4%
村上地域	26,024 人	9,655 人	37.2%
荒川地域	9,585 人	3,441 人	35.9%
神林地域	8,133 人	3,177 人	39.1%
朝日地域	8,604 人	3,697 人	43.0%
山北地域	5,072 人	2,649 人	52.3%

資料：令和 2 年国勢調査

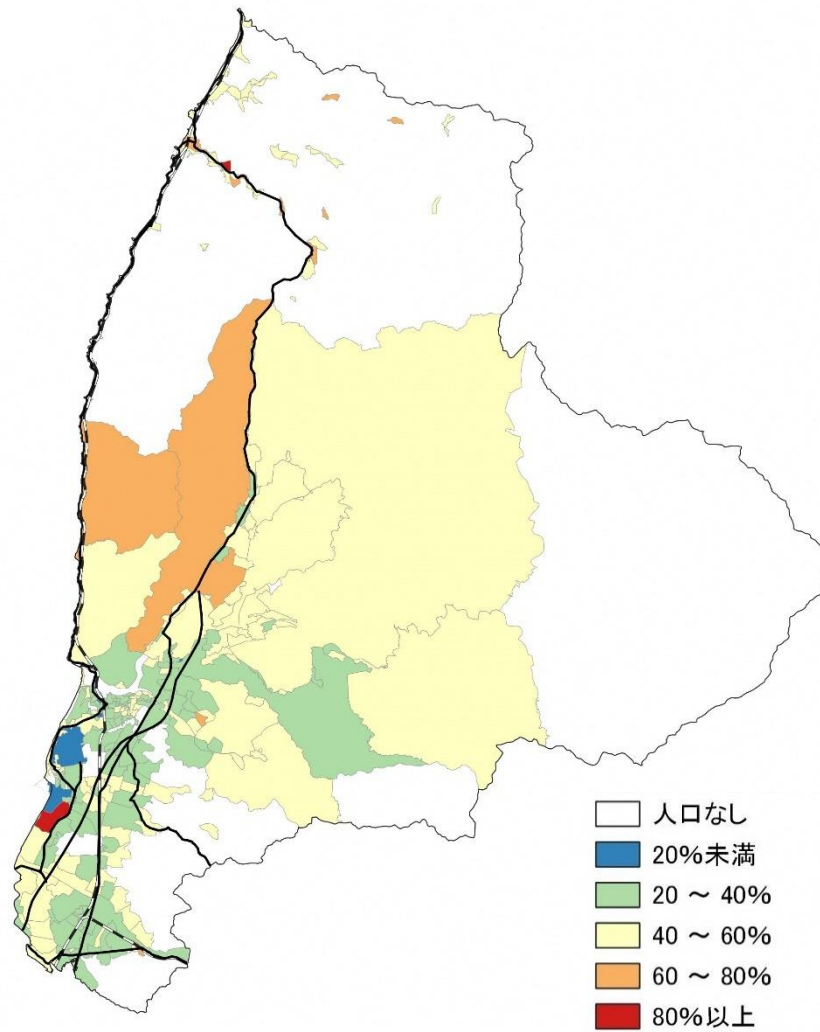


図 7 地域別高齢化率

資料：令和 2 年国勢調査（小地域集計）

3 除排雪の体制

- ・村上市では平成 24 年度から「除排雪自主活動補助事業」、平成 30 年度から「小型除雪機貸出事業」を実施しており、補助金等を活用し自主的に除排雪活動を行っている自治会は増加傾向にあります。平成 24 年度に比べ令和 4 年度の組織数は約 4 倍（60 組織）となります。
- ・令和 4 年度から除排雪体制づくりの推進のため克雪コミュニティモデル事業を開始しており、令和 4 年度は 10 自治会、令和 5 年度は 3 自治会がモデル団体に指定されています。

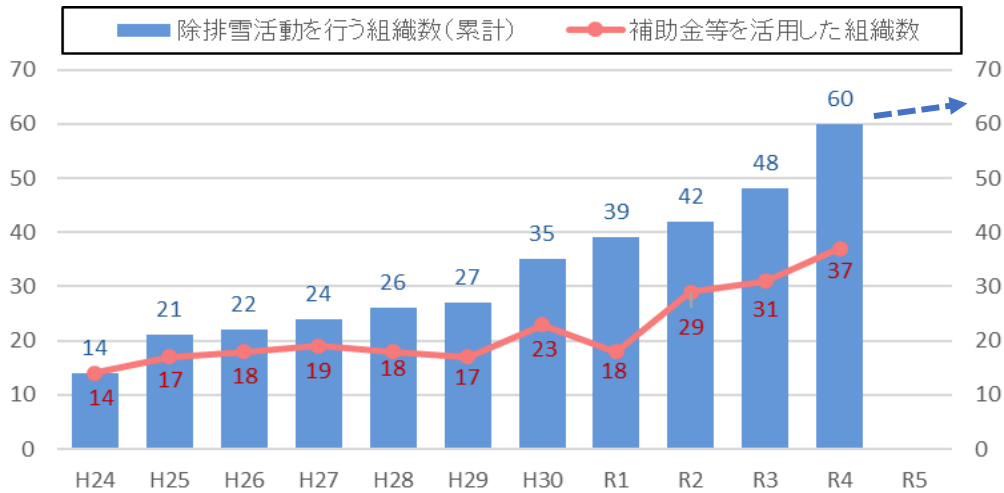


図 8 除排雪活動を行う組織数の推移

資料：村上市

表 3 克雪モデル団体と役割

No.	自治会	団体名
1	寒川	寒川集落防災会
2	杉原	杉原区自主防災会
3	小口川	小口川自主防災会
4	西興屋	西興屋区会
5	松喜和	松喜和青年会
6	大関	大関区除雪協力隊
7	松原町二丁目	松原町二丁目区自主防災会
8	鑄物師	鑄物師区
9	岩船上大町	岩船上大町区
10	飯野一丁目	飯野一丁目地区自主防災・防犯組織
11	大月	大月区除雪会
12	早川	早川区
13	袋	袋区

《克雪モデル団体の役割》

- ①除排雪組織体制の整備
- ②年間事業計画の作成
- ③除排雪作業対象世帯及び作業場所の選定
- ④市が開催する講習会やワークショップへの参加
- ⑤市から借り受けた物品（小型除雪機・除雪用具）の保管及び管理
- ⑥安全な除排雪活動の継続と担い手の確保
- ⑦市への活動実績報告

4 除排雪業者の状況

- ・道路除雪や民地の除排雪作業の主要な担い手である建設業事業者は、事業者数の減少や就業者の高齢化が進行しています。
- ・高齢化や担い手不足により、今後も事業者数や就業者数の減少が予想されます。
- ・一人暮らしの高齢者等が自宅の除排雪を依頼する先として、現在は 28 の事業者が村上市に登録されています。

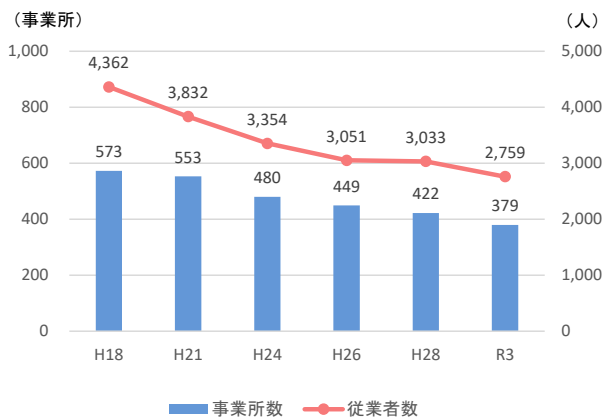


図 9 市内の建設業事業所数と従業者数
資料：経済センサス（各年）

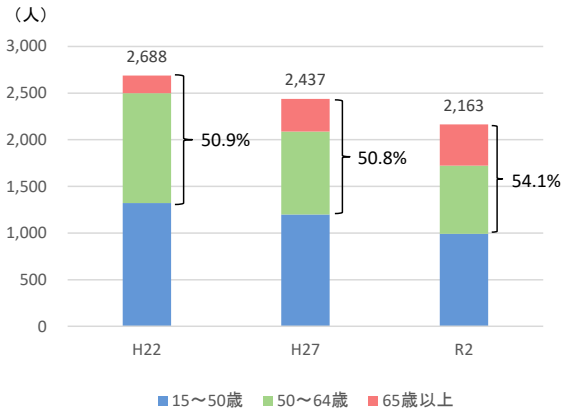


図 10 建設業就業者の年齢別人口
資料：国勢調査（各年）

表 4 令和 5 年度 宅地内除雪事業者数（令和 5 年 12 月 15 日現在）

	事業者数(※1)	作業内容(※2)	費用
市全体	28 事業者	屋根雪下ろし 住宅周辺除雪 私道除雪 排雪	有償
村上地域	21 事業者		
荒川地域	12 事業者		
神林地域	17 事業者		
朝日地域	11 事業者		
山北地域	8 事業者		

※1 事業者数は市全体で 28 事業者の登録があり、そのうち対応可能な地域別

※2 作業内容は事業者により異なる

資料：村上市

5 民地の除排雪に要する行政コスト

- ・補助金等の支出額は積雪量により変動があるものの、令和4年度には675万円（克雪コミュニティモデル事業を含む）を支出しています。
- ・平成29年度は豪雪の影響もあり単年度収支が赤字になるなど、道路除雪を含め除排雪に要するコストは、市の財政状況に影響を与えます。
- ・高齢化や単身世帯の増加に伴い、今後も支援を必要とする世帯は増加すると想定されます。

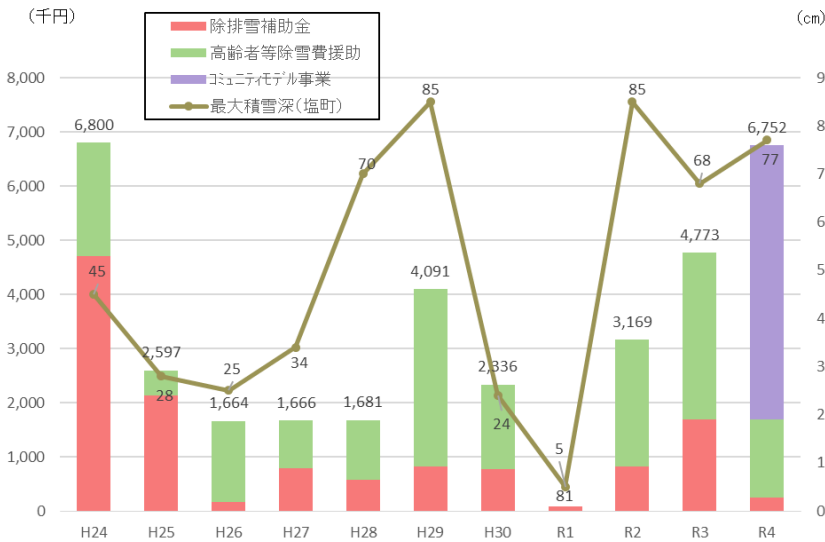
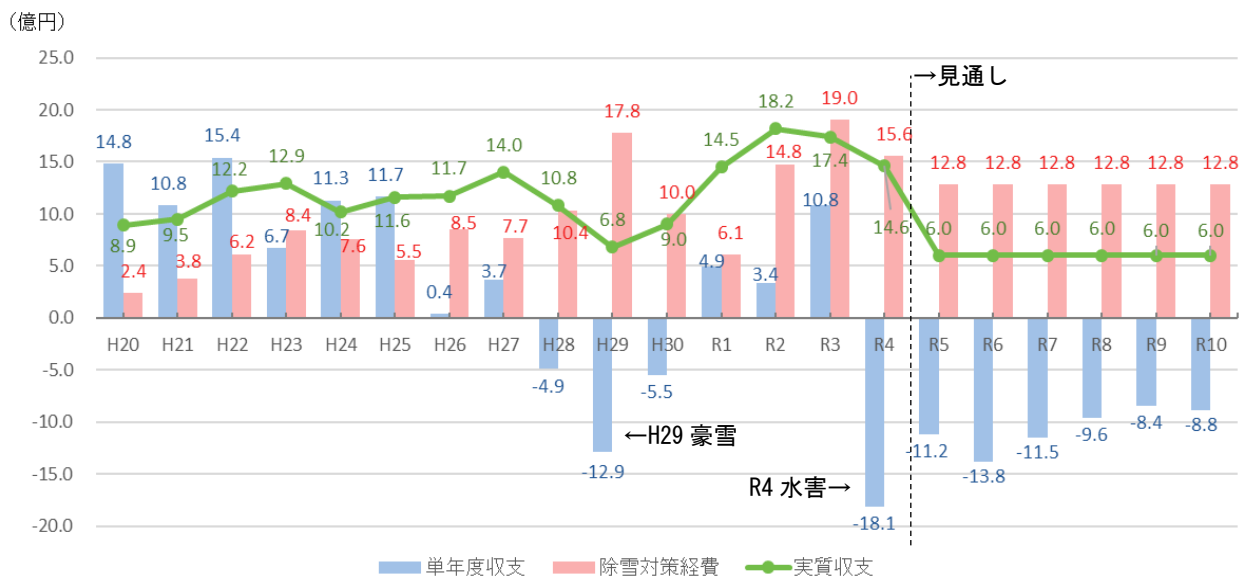


図11 除排雪補助金等による支出

資料：村上市

- 除排雪自主活動補助事業
除排雪に自主的に取り組む自治会に対し、除雪機の燃料代やヘルメット・手袋等の消耗品、小型除雪機の購入費の一部を補助。
- 高齢者等除雪費援助事業
高齢単身世帯や高齢者のみ世帯で市民税非課税世帯等に対し、家屋屋根の雪下ろし・排雪、避難路確保までの必要最低限の除雪費用の一部を補助。
- 克雪コミュニティモデル事業
モデル団体に対し、小型型除雪機や安全装備等の貸与。
<令和5年度で終了>



単年度収支：当該年度のみの実質的な収入と支出との差額 / 実質収支：前年度以前からの収支の累積

図12 村上市の単年度収支と実質収支の推移と見通し

資料：村上市

第3章 現状と将来見込みに基づく課題

「第2章 現状と将来見込み」から村上市における課題を以下のように整理しました。

(1) 除排雪作業に関する死傷者数

ほぼ毎年事故があり、積雪の多い年には死亡事故も発生しています。今後人口減少や少子高齢化が進行することで、体力に不安のある高齢者の作業や単独で作業をする状況が更に増えることが想定されます。また、JPCZ（日本海寒帯気団収束帯）による短時間での積雪量の増加も予想されており、これらの状況から、除排雪作業に関する事故の増加が懸念されるため、事故防止のルール設定や安全対策等が必要です。

(2) 人口・世帯数

人口減少や少子高齢化が続くことで、自治会内の除排雪活動を行う人手が減少し、共用施設等の除排雪作業も困難になる恐れがあります。一方で、除排雪に関して支援が必要となる高齢者世帯も増加する見込みであり、人手不足の状態が一層顕著となることが想定されます。そのため、人材育成等の取組を進めるとともに、積雪を感知することで自動融雪をするなどのデジタル技術による新たな機器の活用等の検討が必要です。

(3) 除排雪の体制

地域安全克雪方針に基づく活動や補助金等の活用により、自ら除排雪に取り組む自治会は増加が見込まれているものの、高齢化や人手不足等により取組が困難な場合や、除排雪活動に消極的な自治会も存在します。今後はこのような自治会の取組を支援していくことが必要であり、除排雪体制の構築に併せて自治会の枠を超えた取組や情報共有の場の設置、補助事業の検証や見直しなどが求められています。

(4) 除排雪業者の状況

道路除雪等を担う建設業事業者において、事業者の減少や従業者の高齢化が進行しているなか、今後は屋根の雪下ろし等の除排雪作業を依頼することのできる除雪事業者も減少する恐れがあります。このことから、今後も除排雪を継続的に行うことができるよう、除雪従事者の確保に努めるとともに、それを補うため、自治会による除排雪体制の構築が必要です。

(5) 民地の除排雪に要する行政コスト

人口減少や高齢者世帯の増加から、今後も支援を必要とする高齢者世帯も増加し、民地の除排雪の支援に要する行政コストは増大することが予想されます。また、人口減少や災害など様々な要因が市の財政に影響を与えており、加えて除排雪に要する行政コストが増大することで市の財政を圧迫し市民サービスの低下を招く恐れがあります。そのような状況を防ぐためにも、地域や行政等のそれぞれの役割分担を明確にし、民地については自立的で安全な住民主体の取組を促進し、行政はその取組を支援することで、事故や災害を未然に防止する取組を進めることが必要です。

第4章 住民参加による課題や取組等の検討

1 ワークショップの開催

地域安全克雪方針の策定にあたり、除排雪に関する地域の課題の共有や、将来のあるべき姿について議論・検討するため、地域住民・事業者等の参加のもとワークショップを開催しました。

ワークショップでは、除排雪に関する課題の抽出や多様な主体による今後の取組を検討するため、様々な立場からメンバーを構成し実施しました。

表5 地域安全克雪方針ワークショップの開催概要

No.	ワークショップ	開催日	参加者数	主な内容
1	第1回 ワークショップ	令和4年 10月26日(水)	19人	①現状・課題の共有 ②課題を解決するための目標
2	第2回 ワークショップ	令和4年 11月29日(火)	18人	①目標の達成に向けた取組 ②取組の達成により目指す地区の 3年後・5年後・10年後の姿
3	第3回 ワークショップ	令和5年 1月22日(日)	19人	①これまでの検討のふりかえり ②将来のあるべき姿

表6 ワークショップ参加メンバー

分類	団体名等
自治会	寒川集落防災会、西興屋区会、松原町二丁目区自主防災会、飯野一丁目地区 自主防災・防犯組織、杉原区自主防災会、松喜和青年会、鋳物師区、鳥屋 区、小口川自主防災会、大関区除雪協力隊、岩船上大町区、大須戸区
福祉	村上市民生委員児童委員協議会、朝日地域集落支援員、 村上市社会福祉協議会、互近所ささえ～る隊
地域連携	新潟リハビリテーション大学、朝日郵便局
除雪業者	一般社団法人村上市建設業協会、(株)丸勝瓦

ワークショップで意見交換等を行った内容は、地域安全克雪方針の各項目へ反映しています。

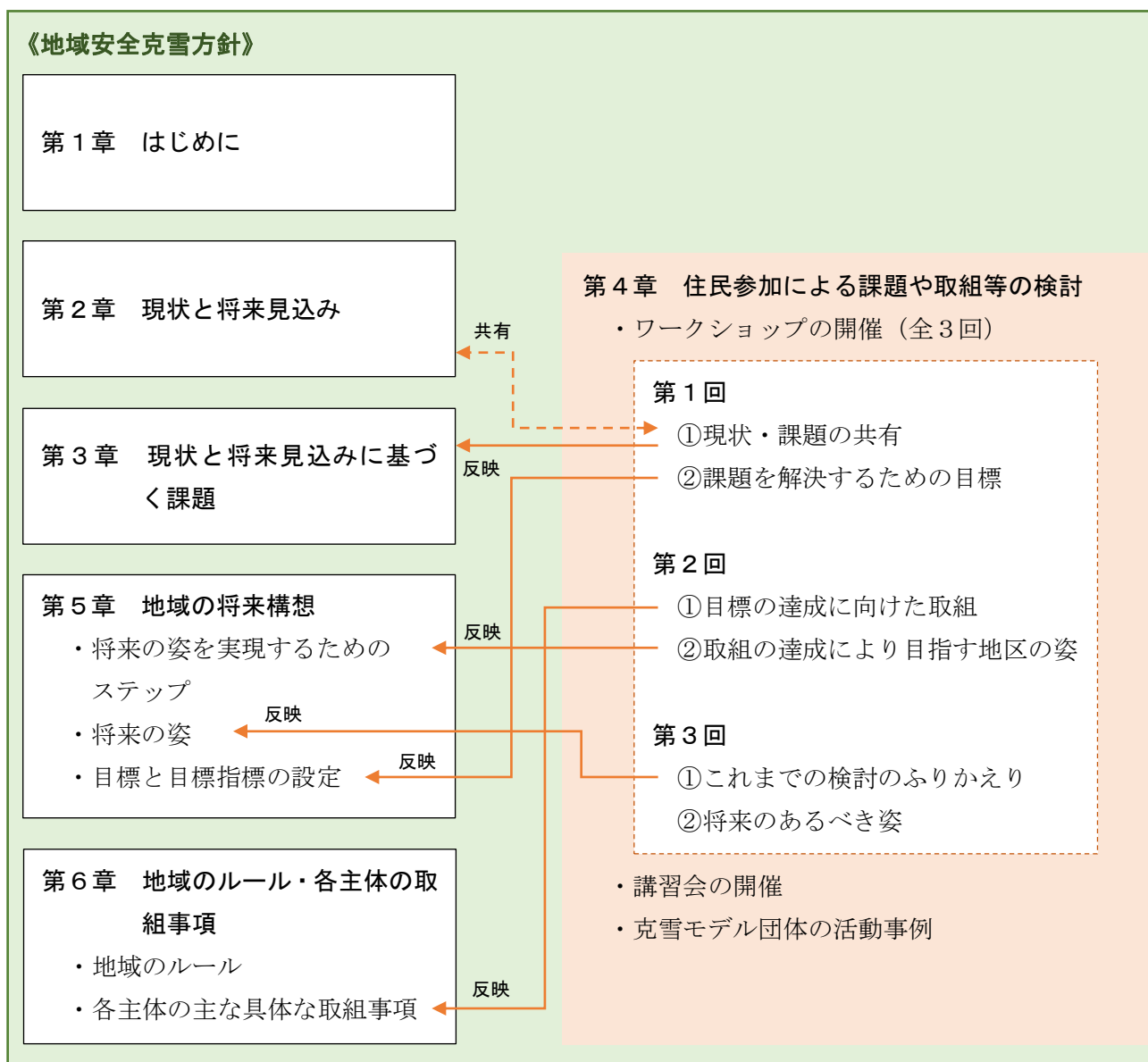


図13 地域安全克雪方針とワークショップの関係

村上市地域安全克雪方針策定ワークショップニュース No.1

第1回『除排雪に関する地区の課題を抽出し、課題を解決するための目標を設定する』

■作成

村上市 企画戦略課企画政策室（担当：山田）

TEL：0254-53-2111（内線3810・3811）

FAX：0254-53-3840



■ワークショップの概要

目的

除排雪に関する地域の課題の共有や、将来のあるべき姿について議論や検討を行い、その内容を各地域での取組や課題解決に役立てるとともに、意見を地域安全克雪方針に反映する。

第1回開催概要

日時	令和4年10月26日（水） 18:30~20:00
場所	村上市教育情報センター 会議室A・B
参加人数	18人（意見交換は3グループに分かれて実施）
内容	説明 ①村上市の概況 ②除排雪に関する現状と課題 ③他市町村の取組事例
	意見交換 ①地域の除排雪に関する課題 ②課題を解決するための目標

スケジュール

回	開催日	検討内容
第1回	10月26日（水）	除排雪に関する地区の課題を抽出し、将来の目標を設定する
第2回	11月29日（火）	目標の達成に向けて必要な地区のルールや取組を検討する
第3回	1月22日（日）	降雪期を迎えてこれまでの検討内容を振り返る

次回

日時：11月29日（火）18:30~

会場：村上市情報教育センター 会議室A・B

テーマ：『目標の達成に向けて、必要な地区のルールや取組を検討する』

次回は、住民・事業者等の様々な立場から、自分たちでできることを考えましょう



■意見交換のまとめ

地域の除排雪に関する課題

●高齢化

- ・高齢者一人で雪下ろしをしていて危険
- ・一人暮らしの高齢者が多く、除雪作業に困っている
- ・高齢者にとって除雪車が通ったあとの自宅前の雪の除去が大変
- ・高齢者宅の玄関～道路・ゴミステーション等の除雪が必要 等



●除排雪の場所

- ・除雪後の道路が狭く、車や歩行者の通行が心配
- ・除雪車による除雪の時間が遅く、通勤・通学に間に合わない
- ・介護施設へ行くための除雪が必要
- ・ゴミステーション・消火栓周りの除雪が必要
- ・排雪場所の確保が必要
- ・空家が増えるとその周辺の除雪等に困る



●人手不足

- ・除雪作業の協力が得られない
- ・雪下ろし業者や除雪オペレーターが減少 等

●支援体制・方法

- ・身近なところに支援体制がない
- ・地区内でどのような体制をつくればよいかわからない
- ・防災組織の意識づけ、予算付けが必要
- ・ボランティアは無料ではなく有料のほうがお互いにやりやすい

●機械除雪

- ・除雪機械の操作が不安
- ・除雪機械を使うための講習会の開催が必要（けが予防）
- ・除雪車が通った後の雪の処理に苦労している
- ・タイヤショベルによる事故がある

●費用の負担

- ・雪下ろしを業者に頼むと費用がかかる
- ・市からの補助は除雪機の燃料代のみで排雪トラックの燃料代は出ない



課題を解決するための目標

① 人材の育成

- ・高校生や地域の若者による除雪
- ・子どものころからの意識づけ
- ・機械操作のための講習会の開催 等

② 地域で除排雪をする仕組みづくり

- ・除雪オペレーター等の作業支援者への報酬等の仕組みづくり
- ・有償ボランティアの活用
- ・地域の課題や良かった点を共有する場の創出 等

③ ルールの設定によるスムーズな除排雪の実施

- ・通学路・ゴミ捨て場など優先的に除雪をする場所の設定
- ・排雪場所や方法に関するルールの設定 等

④ 地域の雰囲気づくり

- ・“地域で助け合う”という意識の醸成
- ・近所で日頃から声掛けができるような関係性の構築 等

《説明と各グループの発表の様子》



全体への説明



Aグループ



Bグループ



Cグループ

■各グループの意見

①地域の除排雪に関する課題

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ●人口が減り多数で協力して除雪ができないため、もしもの時に発見されにくい ●空き家が多く、自宅付近の道路除雪ができない ●1人住まいの高齢者宅の除雪が必要 ●空き家が増えた時の雪下ろしが大変になる ●雪が多いときは高齢者が一人で雪下ろしをしており危険な時がある ●高齢者の玄関口から一般道への道路の確保、ゴミステーションまでの通路の確保が必要 ●消雪パイプが数年前から故障して出ない ●排雪する場所がない ●集落内道路わきの水路に排雪しているが水路がつまる ●空地等への仮除雪場所の確保が大切 ●町内の一般道は消雪パイプがあるところとないところの差が大きい ●脇道を小型除雪機で除雪する。2名で実施し、1名はスコップで危険箇所を確認する ●除雪車による除雪後の固く重い雪の後処理に苦勞している ●消火栓周りの除雪、見回りは重要 	<ul style="list-style-type: none"> ●集落内の道路が狭いので除雪後さらに狭くなり子供たちの通学路の安全が確保できない ●通学路の除雪が問題 ●小さな事故だとあまりそのことについて話し合わないが、積み重なると大きな事故につながる可能性がある ●タイヤショベルの後方に対する事故がある。大きな除雪車だと同乗者がいるため事故はない ●トラクターで集落の防火水槽等の除雪時に民地の除雪を行うが事故はない ●介護施設へ行く為の除雪  	<ul style="list-style-type: none"> ●雪下しする時に仲間がいたら早く下ろすことができる ●機械（除雪機）を使う上でのケガ予防（講習会の開催が必要） ●除雪機械の操作の仕方に不安 ●機械を操作したときの事故や怪我などが心配。どのような保険があるのか ●除雪により道路が狭くなり車や子供の通行が心配 ●除雪車が来るまでの通学路の安全確保 ●除雪車が通った後の雪の始末 ●排雪する場の確保。近くに排雪場が無い 
除排雪に関する支援・体制	<ul style="list-style-type: none"> ●何かあった後の替わりの人が不在 ●集落一斉雪下しが2回ほどあるが人手を確保することが難しい ●雪下しをする人がおらず、いたとしても高齢者が多い ●除雪を手伝う人も高齢者であり、作業の限界がある ●1人暮らしの高齢者が多く除雪に困っている ●若い人よりも高齢の人が、より除雪に積極的 ●市の雪捨て場へ排雪するトラック等の運搬手段が不足している（区で1台しかない） ●若い人達の協力、ボランティア不足 ●自主防災組織の活用 ●無料のボランティアではなく、有料にした方がお互いにやりやすい面がある  	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢世帯宅の前に除雪された雪がたまる ●高齢者宅への雪下ろし（人手がない） ●豪雪の場合、自宅だけで他に手が回らない ●除雪作業の協力が得られない ●通学路の除雪が間に合わない ●ゴミステーションの道路除雪 ●大型除雪機時間遅い ●除雪時間が遅くなる時がある（通勤・通学に間に合わない） ●作業員の高齢化 ●除雪機のオペレーターが不足（平日） ●大型除雪機での排雪場所 ●雪の捨て場が少ない ●家が密集している為排雪の場所がない ●排雪をする場所がなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ●自主防災会のメンバーであっても、除排雪に対する取組意識が低い ●組織の意識の考え方、予算づけが課題 ●予算づけが必要。飲み物や茶菓子などを用意する程度でもよい ●ボランティアでやるのは限界がある（長つづきしない） ●地域住民の高齢化 ●屋根の雪下ろし 高齢化 ●高齢者にとっての除雪作業の困難さ ●15年後には高齢化により除雪する人がいなくなる ●1人暮らしの高齢者が増えて、自宅の除雪が出来なくなってきた ●雪下し業者の減少 ●自宅の除雪作業で手いっぱい。他の家に手が回らない ●身近な所に支援体制がない ●消雪パイプはあるが、雪は消えない ●集落内でどのような体制をつくれればよいかかわからない。日毎に担当を決めるのがよいか、順番を決めればよいか ●農作業用のトラクターを使って雪処理をしている（朝日地区） 
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●雪下しを業者に頼むと費用がかかる ●補助は除雪機の燃料代だけで、排雪のトラックの燃料代は出ない ●通常は市道のみ除雪とし、自宅内の除雪は各自でしてもらいたい ●小型除雪機を使用していると自宅の除雪を頼まれることもあるが、どこまでやっていいかわからない（ルールの明確化） 	<ul style="list-style-type: none"> ●消雪パイプ地下水問題 ●空き家対策 	

②課題を解決するための目標

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ●地域での声掛け ●日常的に信頼関係を築いておくことが大事 	<ul style="list-style-type: none"> ●通学路やゴミ捨て場周辺など、除雪場所に優先順位をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ●女性でもだれでも機械を操作できる ●排雪する場が近くにある
除排雪に関する支援・体制	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティアに頼るまえに、身近な家族や地域で助け合うために自分たちでできることをやる。そのために子どもの頃から教えておく ●有償ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ●高校生や地域の若者が除雪困難世帯を支援する仕組みづくり ●作業支援者に何らかの報酬を与える仕組みづくり ●雪捨て場に関するルールづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域で除排雪をする仕組みができています ●地域のみんなの助け合いの意識が高い！ ●一冬が終わった後に、各集落・地域が互いの状況（良かった点や問題点など）を共有する場がある

村上市地域安全克雪方針策定ワークショップニュース No. 2

第2回『目標達成にむけて必要な地区のルールや取組を検討する』

■作成
 村上市 企画戦略課企画政策室（担当：山田）
 TEL：0254-53-2111（内線3810・3811）
 FAX：0254-53-3840



■ワークショップの概要

目的

除排雪に関する地域の課題の共有や、将来のあるべき姿について議論や検討を行い、その内容を各地域での取組や課題解決に役立てるとともに、意見を地域安全克雪方針に反映する。

第2回開催概要

日時	令和4年11月29日（火） 18：30～20：00
場所	村上市教育情報センター 会議室A・B
参加人数	17人（意見交換は3グループに分かれて実施）
内容	説明 ①前回のふりかえり ②具体的な取組事例の紹介 ③ワークショップの進め方
	意見交換 ①目標の達成に向けた取組 ②将来の地区の姿

スケジュール

回	開催日	検討内容
第1回	10月26日（水）	・除排雪に関する地区の課題を抽出し、将来の目標を設定する
第2回	11月29日（火）	・目標の達成にむけて必要な地区のルールや取組を検討する
第3回	1月22日（日）	・降雪期を迎えてこれまでの検討内容を振り返る

次回

日時：1月22日（日）13：30～
これまでと時間が異なります
 会場：村上市情報教育センター 会議室A・B
 テーマ：『降雪期を迎えてこれまでの検討内容を振り返る』

実際に除排雪を行う季節を迎え、前回までに検討した内容について補足等はないか確認します。



■これまでの意見交換のまとめ

目標 (第1回検討結果)

- 目標1**
人材育成
- 目標2**
地域で除排雪をする仕組みづくり
- 目標3**
ルールの設定によるスムーズな除排雪の実施
- 目標4**
地域の雰囲気づくり

目標を実現するためには…



目標の達成に向けた主な取組

分類	取組内容	取組主体
人手不足の解消	<ul style="list-style-type: none"> ●有償ボランティアや学生ボランティアの結成・育成 ●自主防災組織や除雪班等、地域内の体制づくり ●除雪が習慣となるよう子どもに教える ●●誰もが機械操作ができるよう講習会を実施 ●●地区役員の意識を高めるための勉強会の実施 等 	《取組主体》 ●個人 ●地域の組織 ●ボランティア ●事業者 ●行政
地域のルールの設定	<ul style="list-style-type: none"> ●除雪のルートや優先順位を決めて効率的に除雪を実施 ●●当番や役割分担による公共の場（消火栓・ゴミ捨て場・通学路等）の除雪作業の実施 ●地区で一斉に除排雪を行う日を設定 等 	
コミュニケーション強化	<ul style="list-style-type: none"> ●常日頃からの声掛け等によるつながりの強化 ●災害時にも対応できるような近所付き合い ●講習会等を通じた住民同士の交流の促進 等 	
情報収集・情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ●要支援者や地域の人材を把握 ●地域内で課題を共有する場や、隣接集落等との情報を共有する場の設置 等 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●●機械の貸出や補助等、公的支援の拡充 ●●支援制度等の地区への周知 等 	

将来の姿

みんなが助け合う 大雪でも不便なく生活できる 安全安心で元気に暮らせる



＜説明と各グループの議論の様子＞



全体への説明



Aグループ



Bグループ



Cグループ

■各グループの意見

①目標の達成に向けた取組等

取組の主体 ●個人（利用者・隣近所） ●地域の組織（自治会・自主防災組織・青年団・消防団等） ●ボランティア ●事業者 ●行政（市・県・国）

Aグループ		Bグループ		Cグループ	
項目	取組内容	項目	取組内容	項目	取組内容
個人の取組	<ul style="list-style-type: none"> ●通学路をスコップ、機械で除雪 ●除雪作業が必要か確認 ●除雪を毎日の習慣になるように子どもに教える 	高齢者支援	<ul style="list-style-type: none"> ●日頃からニーズを把握 ●高齢者宅の玄関周り除雪 ●近隣の協力者をつくる（高齢者宅の除雪）（人手不足） 	人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●区の役員の意識を高めるために勉強会 ●学生ボランティアの活動の場を作る ●機械操作を楽しいイベントとして案内し、若者を集めて楽しく作業できる取組
状況把握	<ul style="list-style-type: none"> ●降雪時の役員による調査 ●地域の人の状況の把握（年齢、除雪機の運転ができるか等） ●要除雪支援対象世帯の選定（高齢者単身世帯、高齢者のみの世帯） ●高齢者宅、公共施設、ゴミ捨て場、神社等の除雪 	除雪機械有効利用	<ul style="list-style-type: none"> ●除雪機械に対する補助があることを周知（地区に伝える） ●●オペレーター講習会 	地域で除排雪をする仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●我が家の雪かきのついでに、近くの高齢者宅も行う ●町内(自治会)の年間予算に、除雪をはじめ防災に対する報酬を予算に盛り込む ●仕組みづくりの方法を研修する ●定期的な見守り運動
声かけ	<ul style="list-style-type: none"> ●常日頃から声かけ、あいさつを通して、人と人のつながりを作っておく ●災害等に対応するためには、克雪だけでなく常日頃から声かけ等を行い、人と人のつながりを大切にいく ●何事も助け合うことを前提に、4~5件のグループに分け、災害時に備えておく ●常日頃の付き合いが、いざ災害の時等の避難時に役立つ 	共同作業	<ul style="list-style-type: none"> ●各地区でワークショップ（除雪会議）を開き、地区の現状を共有、課題解決を図る ●防災組織の体制づくり ●ボランティアはなかなか集まらないので、除排雪は自治会でやった方が良い 	ルール設定によるスムーズな除排雪	<ul style="list-style-type: none"> ●区が日にちを決めて、全世帯一斉に行動するような取組 ●自治会の中で誰もが機械操作ができるようにする
仕組み・ルール	<ul style="list-style-type: none"> ●除雪班員はまず自分の組の状況を見回ってもらい、できることはやってもらおう ●班員だけで出来ない時は、他班の班員に協力を求める ●自主防災組織、除雪班の設置（1組~6組で16名の班員がいる） ●除雪は空き地等にいったん集め、状況によりトラックで雪捨て場へ運ぶ ●消火栓の除雪は毎日点検する ●除雪ルートを決めて行う ●消防団、高校生、区役員等の支援体制（早朝、夜間、休日） ●空き家の除雪は当番にする ●休日に人員を多くし、広範囲に作業をする 	人手不足の解消	<ul style="list-style-type: none"> ●事業者の理解（降雪時は雪かきを優先し出社を遅らせることを許容するなど） ●●人手不足を解消するための、機械で省力化するしくみづくり ●学生ボランティア組織づくり ●報酬による住民除雪部隊 ●協力者への報酬、協力者への除雪機械の貸出 	地域の雰囲気づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●最初は区長が先頭になってがんばり、徐々に協力者を作る ●機械操作講習会などを通じ、地区の若者（消防団）と老人（老人会）との交流 ●回覧板の手渡しを通じた声かけ運動 ●地域のなかの課題を共有する場を設ける ●一集落でなく、隣接する集落等との話し合いの場を設ける（他の良いところや課題を共有し学ぶ機会をつくる）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●●ポイントカードなどを活用し地域内ボランティア（有償）の育成 ●●個人に対し、排雪できる場所を募る ●●市の除雪業者には、道路角に圧雪を押し付けるやり方は指導してもらいたい ●●将来の公的支援（燃料代、照明等の設備機器）の充実 ●●市の除雪支援、助成金の拡充（排雪トラックの燃料代、傷害保険への助成） ●●相続放棄した空き家の問題 	除雪作業	<ul style="list-style-type: none"> ●●行政の除雪車の通過後の排雪が多い為、雪山を低くする ●●空き地などの雪捨て場確保（所有者などと事前に調整） 		
		共用施設の除雪	<ul style="list-style-type: none"> ●●早朝の通学路、ゴミ捨て場の除雪作業は集落内の役員で（会社関係定年になった方）。平日は定年層が作業、土日は勤労層が作業で作業分担 ●●効率的な通学路の変更（降雪時は裏口からの登校を許容するなど） ●●消火栓周りの除雪 ●●ゴミ捨て場の除雪 ●●市道の除雪は、市の業者でOK。現在は介護施設へ行く歩行困難者のため道路までの除雪はトラクターの排雪でやっているが、トラクターの維持管理が困難。国、市からの貸与機械を望む 		

②地区の将来の姿

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
短期	<ul style="list-style-type: none"> ○地区の状況を把握している 	<ul style="list-style-type: none"> ○集落内での除雪作業の仕組みづくり（平日と土日の役割、作業分担、当番など） ○高齢者リストづくり、情報把握と行政への情報提供 ○郵便職員、新聞配達員などが玄関先の除雪がなされていない世帯などの情報把握 ○共用施設の除雪に関する優先順位の整理（例：消火栓→ゴミ捨て場→通学路など） 	<ul style="list-style-type: none"> ○まずは取組意識を高め、地域の課題を皆で共有する ○町内（区内）のルールづくり（3年以内につくる） <ul style="list-style-type: none"> ・ルールがあれば、頼む側も「たのみやすい」 ・ルールがあれば、やる側も「動きやすい」
中期	<ul style="list-style-type: none"> ○状況に応じた体制ができている（人の減少、雪の量など） 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部の人や住民に作業してもらう対価として十分な報酬が準備されている ○人口減少・高齢化が進行しても機械化でカバーできる ○大雪でも不便なく生活できる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ルールの下で、繰り返し取組を進めながら、ルールを検証し、より良いものに磨き、ルールの幅をひろげていく <ul style="list-style-type: none"> ・悪いところを見直す ・除雪だけでなく他の取組も ・冬だけでなく他の取組も
長期	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなが助け合っているいろいろなことに取り組み（除雪以外のことも） 		<ul style="list-style-type: none"> ○若者を含めて、地域（地区）の一体感が生まれる ⇒安全安心で元気な暮らし

村上市地域安全克雪方針策定ワークショップニュース No. 3

第3回『これまでの検討内容をふりかえり、将来の姿を検討する』

■作成
 村上市 企画戦略課企画政策室（担当：山田）
 TEL：0254-53-2111（内線3810・3811）
 FAX：0254-53-3840



■ワークショップの概要

目的

除排雪に関する地域の課題の共有や、将来のあるべき姿について議論や検討を行い、その内容を各地域での取組や課題解決に役立てるとともに、意見を地域安全克雪方針に反映する。

第3回開催概要

日時	令和5年1月22日（日） 13:30~15:00
場所	村上市教育情報センター 会議室 A・B
参加人数	19人（意見交換は3グループに分かれて実施）
内容	説明 ①前回のふりかえり ②地域安全克雪方針（素案）について ③ワークショップの進め方
	意見交換 ①地域安全克雪方針（素案）について ②将来の姿（キャッチフレーズ）

スケジュール

回	開催日	検討内容
第1回	10月26日（水）	・除排雪に関する地区の課題を抽出し、将来の目標を設定する
第2回	11月29日（火）	・目標の達成にむけて必要な地区のルールや取組を検討する
第3回	1月22日（日）	・降雪期を迎えてこれまでの検討内容を振り返る

地域安全克雪方針に関する予定

令和4年度	ワークショップで素案に対する意見交換
令和5年度	実証事業（除雪機の貸出等）、アンケート等の実施
令和6年2月頃	パブリックコメント（市民意見公募）

■意見交換のまとめ

これまでの検討や12月の降雪を踏まえた主な意見

《課題》

- 安全対策に関すること
 - ・近所やボランティアと協力して除排雪作業を行うことで、事故防止につながる
 - ・事故が起こった場合に備えて保険や補償に入っておくことも必要 等
- 人手の確保・体制に関すること
 - ・周辺地域との協力や情報技術の活用で人手不足を解消することも考えられる
 - ・人手不足解消のために、人に対してお金が使えるような支援制度があるとよい
 - ・高齢者しかおらず、取組をしたくともできない地区があることを考慮すべき 等
- その他
 - ・財政が厳しいから地域との協働で除排雪を行うというのは、行政の仕事を丸投げしているようにも感じるので、災害の未然防止等の取組は行政でしっかり行うべき 等

《ルール・取組》

- 地域等
 - ・村上市のルールを基本として、各地区・集落がルールを作っていければよい 等
- 事業者
 - ・「事業者同士の連携」を追加してはどうか。互いに応援し合う形があってもよい 等
- 行政
 - ・倒木の防止など日常的な点検や停電などの非常時への備えをしてほしい 等

《今年度の大雪に関すること・感想など》

- ・除雪機の常備は心強かった、意欲がわいた
- ・大雪だと自宅の除雪で手一杯で高齢者宅まで周りきれない 等

「将来の姿」のキーワード

- 安全・安心
- 助け合い
- 協力
- 声かけ
- 思いやり
- お互い様
- 地区のため
- 地域を少しでもよくしよう
- 住み続けられる地域
- 元気に暮らせる
- 笑顔で暮らせる
- 行政に頼らない
- 無理なく
- 仲良く
- 常日頃からの付き合い 等

ワークショップにご参加いただきありがとうございました。今後ともご協力よろしくお願いいたします。

《説明と各グループの議論の様子》



全体への説明



Aグループ



Bグループ



Cグループ

■各グループの意見

①地域安全克雪方針（素案）について

Aグループ			Bグループ			Cグループ		
項目	分類	取組内容	分類	取組内容	項目	分類	取組内容	
課題 (3章) について	安全 確保	<ul style="list-style-type: none"> 単独作業が事故につながるため、2人以上で実施することが必要。 除雪機の使用者を消防団・区役員などに限定し、事故防止に努めている。 向こう三軒両隣で、班をつくり、ボランティアと協力して行うことで、事故防止につながる。 屋根の雪おろしを行う人手がないため、それが事故につながるため、安全確保のためにも人手の問題は重要。 屋根の雪が落ちてくると危険。通行に気を付けることが必要。 スコップ等でまわりの安全確認を行うことが必要。 事故が起こった場合に備えて、保険などに入っておくことも必要。 	雪捨て場	<ul style="list-style-type: none"> まちなかで雪がつかると、排雪する場がなく道路に出さざるを得なくなる。 雪の捨て場がない。 	課題 (3章) について	除排雪 の 体制	<ul style="list-style-type: none"> 「消極的な地区・集落等～」とあるが、消極的というよりも高齢者しかいなくて、やりたくても“できない”のが現状。 「対象や内容の見直し等により～」とあるが、「モデル地区を増やす」など具体的に記述をすると良い。また、「モデル地区での成功事例を共有する」ことも大切なので、その趣旨の記述もあると良い。 	
	人手 不足	<ul style="list-style-type: none"> 人手確保のために周辺の地域と協力しながら、人手不足を補っていくことも考えられる。 情報通信技術を活用して、人手不足を補っていくことも考えられる。 	他者 支援	<ul style="list-style-type: none"> 平日の朝に大雪が降ると勤労者の除雪役員は何も出来ない。 自宅及び職場を除雪すると時間がかかる。 雪の降る量が多すぎると自分の家でいっぱい、高齢者宅までまわりきれない。 若い人の力は、休日ならする人もいるかもだが…。 		民地の 除排雪		<ul style="list-style-type: none"> 「行政に頼らない」という趣旨の記述があると良い。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> 財政運営が厳しいから地域との協働で除排雪を行うというのは、行政の仕事を丸投げしているように感じる。災害の未然防止につながる取り組みは、行政でしっかりと行う必要がある。 行政がやることと市民の協働でやることは別であり、しっかりと整理してほしい。 	除雪 機	<ul style="list-style-type: none"> 除雪機の常備は心強かった。 除雪機の貸し出しは、意欲がわいた。 通学路及び歩道の除雪作業を実施した。 大型除雪車が入れない道路の除雪作業は個人のトラクターを使用。 			ルール (6章) について	ルール
取組 (6章) について	事業者	<ul style="list-style-type: none"> 一般企業の協力も重要であり、出社時間をずらすなどの取組も入れられないか。 	業者 への 配慮	<ul style="list-style-type: none"> 除雪中、わがままな苦情が多い。 個人から業者に除雪依頼があるが、対応できない。 →近隣の人同士での対応をお願いしたいが、隣人も高齢者で共助できない →個人にも除雪機の貸し出しがあれば… 	取組 (6章) について			体制・ 組織 づくり
	支援	<ul style="list-style-type: none"> 支援制度をもっと使いやすくし、人出不足の解消に向けて、人にお金が回るようになることよい。 融雪設備を設置する費用だけでなく、電気代などのランニングコストも支援できるとよい。 除雪機が2台あると作業効率上がる。 	取組	<ul style="list-style-type: none"> 市内高校に協力依頼し、市営団地を除雪活動している。ここ数年で定着している。 通学路、歩道の凍結がかなりあり、融雪剤を散布した。 独居高齢者で私道が長い等、たすけあい名簿を活用して、細かい対応ができた。 		市民		<ul style="list-style-type: none"> 「市民」か「住民」か。地域との違いも含めて、わかりやすく説明すべき。
	行政 の 役割	<ul style="list-style-type: none"> 倒木防止のための木の伐採や点検を行うこと。 停電で非常に困ったので、通信障害時の対応をあらかじめ考えてもらいたい。 	その他	<ul style="list-style-type: none"> 毎日雪がふると、精神的につらい。 災害級の大雪の時は、学校・企業の休業等、動かない。（業者も無理しない） 雪の量は減っている。（中途半端に降るので困っている） もっと雪が降る地区（山間地の集落）の意見を。 				

②「将来の姿」のキーワード

Aグループ	Bグループ	Cグループ
<ul style="list-style-type: none"> 住民の力で安心、安全な除雪対策（克雪） 助け合い安全除雪つながる地域 仲良く除雪 自分が困っていれば他人も同じである 安全安心 笑顔で暮らせる 協力しあえる町（まち）づくり 声かけて助け合う向こう三軒両となり 常日頃からの付き合いが助け合いになる 克雪も同じこと！ 地域を少しでもよくしようの気持ちで対応しよう 頼りになろう 頼りにしよう 地域克雪活動 	<ul style="list-style-type: none"> 住み続けられる地域（冬だけの問題ではないが…） お互いさまの気持ち ちょっとした不便はしょうがない、お互い様で協力しよう 	<ul style="list-style-type: none"> 行政に頼らない地域を目指そう みんなが助け合って元気に暮らせる 声かけ 助けあって 地区のため 助けあい 無理なく 思いやり 安全安心で 安全に

2 講習会の開催

村上市では、除排雪時の事故防止や地域による活動を支援するため、地域の団体や市民等を対象とした講習会を実施しました。

表 7 講習会の開催概要

No.	講習会	開催日	参加者数	主な内容
1	命綱固定アンカー設置講習会	令和 4 年 7 月 20 日 (水)	20 人	①命綱固定アンカーの設置方法 ②命綱固定アンカーの種類
		令和 5 年 7 月 25 日 (火)	21 人	
2	克雪活動講習会	令和 4 年 7 月 26 日 (火)	42 人	①地域ぐるみの除排雪作業の取組による安全確保
		令和 5 年 11 月 28 日 (火)	18 人	
3	小型除雪機の操作講習会	令和 4 年 12 月 20 日 (火)	21 人	①小型除雪機の操作方法 ②作業中の安全確保
		令和 5 年 12 月 15 日 (金)	10 人	



命綱固定アンカー設置講習会



克雪活動講習会

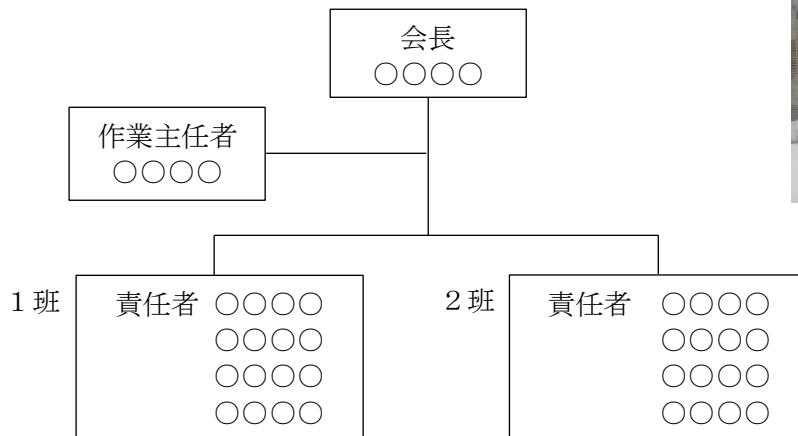


小型除雪機の操作講習会

3 克雪モデル団体の活動事例

克雪コミュニティモデル事業により除排雪活動を実施したモデル団体の事例（令和4年度）を紹介します。

- 1 モデル団体名 杉原区自主防災会（構成員：228 世帯、566 人）
- 2 活動内容 高齢者世帯等の除雪、排雪ルート確保のための除雪等
- 3 機材保管場所 空き家車庫借用
- 4 組織編成 構成員 10 名



機械操作説明

※臨機応変に体制を変更する。

5 活動の流れ（ルール）

- ・降雪後に町内をパトロールし、積雪状況を見ながら出動する。
- ・1 か所を2名以上で作業し、無理をせず休憩を取りながら作業をする。
- ・作業終了後は資機材の点検をし、活動を記録する。

6 活動状況

時期	出動回数	出動人数(延べ)	除雪場所(延べ)
令和4年12月～令和5年2月	7日間	19人	44世帯



除雪作業



除雪作業



機材保管

第5章 地域の将来構想

村上市の課題を解決し将来の姿を実現するためのステップや、将来の姿を次のように掲げ、その実現のために達成していくべき目標を以下のとおりとします。

《将来の姿を実現するためのステップ》

■ステップ1（1～3年の間に）

- ・ 地域の実情（支援が必要な世帯、除雪業者、除雪機械の操作者等）を把握する。
- ・ 自治会全体で除排雪に取り組むためのルールを設定する。
- ・ 除排雪活動を行う組織を立ち上げる。

■ステップ2（2～5年の間に）

- ・ 常に活動を振り返り、ルールや体制を見直すことで、よりよい組織・ルールをつくる。

■ステップ3（10年後までに）

- ・ デジタル技術や最先端の除排雪技術を導入し、人手や資金不足に対応した持続可能な除排雪体制を確立する。
- ・ 人手不足を補うため単独自治会のみでの活動ではなく、近隣自治会の連携を深め、共助の体制を強化する。
- ・ 自治会の一体感や助け合いの意識が醸成され、除雪以外の課題についても協力して取り組むことのできる自治会となる。



除雪作業



屋根に積もる雪

《将来の姿》

“お互い様”の安全除雪 ずっと笑顔で暮らせる地域

《目標と目標指標の設定》

目標 1 安全な除雪作業

除排雪時の死傷事故件数ゼロを実現します。

目標指標	現状値 (R4 時点)	5 年後	10 年後
除雪作業中の死傷事故件数	3 件	0 件	0 件

目標 2 地域で除排雪をする仕組みづくり

自治会ごとに住民が協力して除排雪を行うための仕組みをつくりま

目標指標	現状値 (R4 時点)	5 年後	10 年後
地域で除排雪を行う組織の割合	21.6% (60 団体)	25.2% (70 団体)	28.8% (80 団体)

※「割合」とは市内 278 自治会(令和 4 年 4 月 1 日現在)を分母としたもの

目標 3 安全対策の促進

除排雪時の事故を防ぐため、住宅の克雪化の推進や情報発信等により安全対策を促進します。

目標指標	現状値 (R4 時点)	5 年後	10 年後
雪下ろし命綱固定アンカー設置済住宅数	4 戸	19 戸	34 戸

第6章 地域のルール・各主体の取組事項

村上市における除排雪の課題を解決し、将来像を実現していくため、地域のルールを設定するとともに、市民・自治会・事業者・行政の各主体が取組を進めていくことが必要です。

「将来の姿」を実現するためのルールと各主体の取組事項を、以下のとおりとします。

《地域のルール》

- 安全に除排雪をするために、地域の人と声をかけあいながら作業をしましょう
 - ・一人での作業はなるべく避け、無理をせず、しっかりとした安全対策
 - ・万が一に備えて、日頃からの近所の人とのコミュニケーションが大切
- 自治会内の支援が必要な世帯や、みんなが使う場所は、助け合い協力して除排雪をしましょう
 - ・自宅周辺の除排雪のほか、可能な場合は支援が必要な世帯の除排雪に協力
 - ・近隣のごみステーションや集会所、消火栓周辺などの除排雪に協力
 - ・地域で行う除排雪活動に、積極的に参加

《各主体の主な取組事項》

表8 各主体の主な取組事項

取組		主体			
分類	具体的な内容	市民 (個人)	自治会	事業者	行政
除排雪作業の実施	自宅周辺の除排雪	●	●		
	支援が必要な世帯の除排雪	●	●		
	共有の場所(ごみステーション、集会所、消火栓周辺等)の除排雪	●	●		
	歩道や地区・集落内の生活道路の除排雪		●	●	●
	除排雪事業者同士の連携			●	
体制・組織づくり	自主防災組織や学生ボランティア団体等との連携による体制の構築		●		●
	作業の役割分担等の設定		●		
	活動や組織づくりのための講習会の開催		●		●
	除排雪活動に対する理解・協力	●		●	
人材の育成	機械操作や安全対策講習会等の開催		●	●	●
	機械操作や安全対策講習会等への参加	●	●		
	子どもへの教育(雪かきを教える)	●	●		
	地域で除排雪を行う人材の育成		●		●
	除雪オペレーター等の担い手確保			●	●
機械や消耗品等の支援	除雪用機械等や排雪トラック等の貸出			●	●
	燃料等の消耗品の支援				●
情報の把握・共有	支援が必要な世帯や地域の人材の把握		●		
	住民の交流促進や情報共有のための場の設置		●		●
公的支援	公的支援の拡充や支援制度等の周知				●
	事故や災害を防ぐための道路等公共施設の点検・維持管理や、災害時への備え				●

自助

共助

公助

村上市地域安全克雪方針

(令和6年3月)

発行 新潟県村上市

編集 村上市企画戦略課

TEL 0254-53-2111

URL <https://www.city.murakami.lg.jp/>